

令和元年度 学校評価一覧表② 桐生市立川内中学校

評価設定 【A：80%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：49%以下】

評価対象	評価項目	具体的な数値項目	自己評価(総合)	学校関係者評価	学校関係者会員の意見	今後に向けての学校の考え (○よさ ●課題)	
I 保護者との連携	1 生徒の活動の様子を保護者に連絡し、理解を得ていますか。	①保護者の80%以上が「学校や生徒の様子がわかる」と感じている。 ※保護者の80%以上が、学校の教育方針や活動に協力的である。	A	A	*学校は、学校便りや学年・学級通信、保護者会等の機会に、生徒に関する情報や学校の教育方針や活動方針等を発信している。今後もこのような取組を継続していくことをお願いしたい。	○保護者の94%が、学校や生徒の様子がよく分かると答えている。保護者会では学校行事の様子を映像で紹介している。普段から生徒の様子にきめ細かく目を配ると共に、些細な変化が見られたならば 電話連絡や家庭訪問等を通して、保護者と具体的な対応について相談していくことを徹底していく。また、欠席した生徒には必ず電話連絡をするなどきめ細かい対応を継続し、保護者との信頼関係を深める。 ○保護者の80%が、学校行事や保護者会等で、年に2回以上学校に来ると答えている。昨年度に比べ、今年度は、やや割合が下がった。体育祭、合唱コンクール等の行事は保護者も楽しみにしていたようで、生徒の頑張りを直接見ていただき、好評であった。また、家庭教育学級でも限られた時間の中で、有意義な時間が共有できたが、参加人数はやや少なく、改善が必要だと考える。今後とも、魅力ある学校行事、保護者会、PTA活動を推進していく。 ○保護者の93%が、学校便り・学年・学級通信によく目をとおすと答えている。また、ウェブページについては、ICTサポートと連携し、掲載内湯を吟味しながら、随時情報を発信できるよう改善を図っていく。 ●「学校や生徒の様子がわかること」と同時に「学校に保護者連絡、相談しやすいこと」も学校は重視している。『開かれた学校づくり・開かれた教育課程』を一層進める必要があると考えている。特に保護者会への参加率を上げていきたい。	
	2 保護者は学校のことを知ろうとしていますか。	②保護者の80%以上が、PTA活動に年2回以上参加している。 ※保護者の80%以上が、学校からの通信物を必ず読んでいる。	A	A	*PTA活動はもとより、学校行事等でも保護者が学校を訪問する機会が多く、多くの保護者は学校の状況を理解し協力的である。今後とも情報発信をお願いするとともに、お互いに相談しやすいような、学校の雰囲気作りもさらに進めて欲しい。		
II 確かな学力	3 生徒一人一人を大切に、日々の授業を行っていますか。	③生徒の80%以上が「授業がわかる」と感じている。 ④生徒の80%以上が、やる気や意欲が向上していると感じている。	B	A	*ICT機器を中心とした教育機器を有効に活用して、生徒が興味をもって取り組むことができるような投げかけをしてほしい。 *生徒が意欲的に取り組める授業になるよう、先生方の工夫も継続してもらうとともに、地域の人材を紹介して、うまく活用して行ってほしい。	○生徒の92%、保護者の80%が、「川内中では、わかりやすい授業がおこなわれている」と感じている。授業で、「本時のめあて」を毎時間提示して授業の見通しを持たせるとともに、「授業のふりかえり」をすることで、学習内容の確実な定着を図っていく。また、PTや少人数指導の良さを生かし、単元によって指導方法を工夫をするなどして、学習の定着が不十分な生徒に対しては、生徒に合った、きめ細かな個別の支援をしていく。 ●授業中の観察では、積極的に取り組む生徒と、受け身になってしまう生徒との差が大きいことが見受けられる。授業を行う際には、この単元でどのような力を付けたいのか、本時でどのような力を伸ばしたいのかを教師が明確にねらいをもって指導している。「本時のめあて」を明確に提示し、授業の見通しを持たせるとともに、「授業のふりかえり」をすることで、学習内容の確実な定着を図ることを一層推進し、授業内容や指導法の改善に努めていきたい。 ●学習の定着が不十分な生徒に対しては、個別の支援を今後も行っていきたい。また、生徒が意欲を持つためには「学習内容がよくなる」等の達成感を感じる事が必要である。あらためて基礎基本の定着を図るために、生徒個々の実態を正確に把握・分析し、個にあつた適切な指導となるような授業改善を進めていく。 ●生徒の79%、保護者の68%が、計画的に家庭学習に取り組んでいると答えている。生徒、保護者ともに平成30年度の回答よりも若干高くなっていることが成果である。今年度も学年対抗の漢字、計算、英単語コンテストを実施し、意欲付けを行った。今後も、計画的に家庭学習に取り組めるよう「はげたく川内中生の勉強方法」(川内中作成)を活用し、家庭学習での課題の出し方等の工夫を行ったり、効果的な学習方法を学活の授業等で取り上げ生徒の意識の向上を図っていく。 ●生徒がじっくりと考えた上で自分の考えをもち、発表できるような課題の設定を行うとともに、学び合いの活動を取り入れる等の指導法の工夫をする。また生徒の課題への取組の良さをその場で伝えるなど、意欲の向上を図る工夫を推進していく。	
	4 主体的な学習習慣が生徒に身に付いていますか。	⑤生徒の80%以上が家庭学習の習慣を身に付けている。 ※生徒の80%以上が、基礎学力向上に向けた学校全体の取組に意欲的に取り組む等、主体的な学習習慣を身に付けている。	C	B	*生徒の家庭学習については、家庭での教育が重要なので、PTA会長を中心に家庭での取り組みを呼びかけていけると効果も上がるのではないかと。 *川内地区生涯学習推進委員会主催で、『スマイル学習会』を毎週木曜日、公民館で行っている。地域としても、中学校の生徒の学習支援活動を行っていきたくと考えているので、引き続き、学校でも積極的に生徒に紹介をしてほしい。		
III 豊かな心	5 いじめのない温かい人間関係を育てていますか。	⑥生徒の80%以上が「先生は悩みやいじめの解消に努めている」と感じている。 ※生徒の80%以上が「困った時に相談できる先生がいる」と答えている。	B	A	*生徒と教員の関係は大変良く、体育祭や合唱コンクールなどの行事でも大変すばらしい雰囲気の中で行われ、成果を上げている。今後もよい雰囲気を維持できるように、生徒の様子を注意深く見守りながら、生徒や保護者とのコミュニケーションを密にしてほしい。	○生徒の87%、保護者の87%が、川内中では生徒の悩みやいじめの解消に向けた取組が行われていると答えている。心の安全点検(毎月)、学校生活評価表(毎学期)、を実施し、実態の把握につとめるとともに、教育相談部を中心とした組織的な相談活動を推進する。 ●生徒の69%、保護者の75%が、困ったときに先生に相談していると答えている。毎月実施している「心の安全点検」や、「学校評価表」の結果を活用し、教師やカウンセラーが保護者とも連携して、積極的に相談活動を展開している結果であると答えている。今後も、アンケート「学校生活表」「心の安全点検」の結果を全職員で共有し、常日頃から生徒及び保護者と連絡を密にし、人間関係や心の変化を捉えた積極的な働きかけを一層推進する。また、教育相談部が中心となり、SCやSSW、教育相談員と連携し、組織的かつ積極的に相談活動を推進する。また、学級活動や道徳の時間などで生徒自らが自分たちの力でいじめをなくす活動を推進し、生徒がいじめを許さない意識と態度を育成できるよう、今後も指導を充実させていきたい。 ○生徒の95%、保護者の96%が、子どもは家庭や近所の人に挨拶をしていると答えている。本校の良さの一つでもある。今後とも生徒会による挨拶運動や、登校指導等充実させていきたい。また、生徒の95%、保護者の96%が、時や場、相手に応じた言葉遣いができていると答えている。この点は教師の見とりと多少のずれが生じる部分であるので、日常生活のさまざまな場面で声かけをするなど常時指導を大切にしながら、今後もより一層自覚を高めさせる指導を行うなど工夫を行う。	
	6 生徒は時と場に応じた適切な言動をとることができますか。	⑦生徒の80%以上が、近所の人、友達や教師に進んであいさつしている。 ⑧生徒の80%以上が、時や場、相手に応じた適切な言葉遣いをしている。	A	A	*さまざまな場面で元気よく挨拶をしている生徒が見られる。登校指導時には生徒の方から挨拶をしてくれることが多く、気持ちもよいので継続できるような指導をお願いしたい。 *コミュニケーション能力や人や状況に応じて対応の方法を変えられる力は大人になって必要な能力なので、それを伸ばせるような指導を心がけてほしい。		
IV 健康・体力	7 「保健だより」を発行したり「歯磨きタイム」を設けたりするなど、健康に対して関心が持てるように指導していますか。	⑨生徒の90%が、毎日朝食をとってから登校している。 ⑩保護者の80%以上が、学校は積極的に健康教育に関する指導を行っていると感じている。	A	A	*多くの生徒が朝食を取っているのが良い。朝食で体内時計が正常化され、規則正しい生活につながっていくので、引き続き家庭の協力を呼びかけた。 *親が必要以上の収入を得るために子どもを犠牲にすることがないよう心がけたい。家族でコミュニケーションをとれる時間を確保できれば、様々な問題も改善していけるのではないかと考える。	○生徒の95%、保護者の94%が、毎朝朝食をとってから登校していると答えている。養護教諭を中心に歯磨きの推進や歯の治療を進める取り組みを行い成果を上げた。健康な歯で朝食をしっかり食べ、毎食後に歯磨きの習慣を付ける取組の重要性など、今後も自己の健康に係る意識を高めていく。 ○生徒の91%、保護者の88%が、健康に関する指導を実感している。学校保健委員会で「メディア利用」の実態把握、分析、考察を行った。睡眠時間は授業中の集中力を高めることを周知し、今後も十分な睡眠時間を確保できるよう、アウトメディアの設定等を家庭にも働きかけていく。また、「早寝・早起き・朝ご飯」を提唱し、睡眠時間は授業中の集中力を高めることを周知していく。今後も健康に留意した生活が送れるよう、様々な場面で家庭に働きかけていく。 ○生徒の83%、保護者の91%が、部活動や社会体育などに参加していると答えている。本校では体力の向上を重視し、「体づくり運動」等を取り入れ、学校の教育活動全体で行うことを目標としている。今年度も休み時間にボールの貸し出しを行ったり、学年単位での「球技大会」を行ったり等、生徒会活動だけでなく、学校全体で運動を推進するの取組を実施してきた。生徒が生涯にわたってスポーツライフを実現できるよう、今後も指導を継続していきたい。	
	8 生徒は日常生活の中で運動に親しんでいますか。	⑪生徒の80%以上が部活動や社会体育の活動に参加している。	A	A	*部活動等のスポーツから学ぶことも多いので、働き方改革の問題等もあるが、運動する時間の確保を十分工夫してほしい。また部活動の問題はひとつの学校だけでなく、市や県で検討していかなくてはならない問題だと考える。		
V 安全確保	9 施設・設備の安全管理や危機管理を徹底していますか。	⑫生徒と保護者の80%以上が、学校は安全だと感じている。	A	A	*確かに学校の施設は老朽化が進んでいるが、点検を定期的に行って、不良箇所へは迅速な対応や修繕を行い、生徒の安全の確保に努めてほしい。	○生徒の94%、保護者の90%が、学校の施設・設備などは安全だと答えている。3学期には地震等を想定した休み時間での防災避難訓練を実施する。今後は危機管理マニュアルをより一層充実させ、地域や保護者との連携について検討を行いながら信頼関係をより一層高めていく。来年度は災害人引き渡し訓練を小中合同で実施する予定で計画を進めている(6月)。 ○生徒の80%、保護者の88%が、パトロールや補導などの活動が有効だと感じている。桐生祭りや恵比須講時のパトロール、また、下校時における校区内パトロールで気になったことなどを定期的に生徒に伝えるなどの工夫をしていく。 ○PTA生活指導部及び職員による登校指導を、年間3回実施した。生徒会活動でも、自転車安全点検を教師の指導のもと、実施した。自転車の乗り方については一時停止と確認を指導した。自転車の不良率は低く、これら活動が有効であると答えている。今後とも、様々な場面で交通安全について生徒への指導を行っていきたい。	
	10 交通事故や不審者への対策を十分にとっていますか。	⑬保護者の80%以上が、パトロールや補導などの活動は、生徒の安全を守る上で役立っていると感じている。 ⑭交通安全指導や自転車の点検整備指導を、学期に1回以上実施している。	A	A	*交通事故の未然防止に向けて、危険箇所的事前調査や定期的な登校指導等を行う必要がある。危険箇所や街灯設置の要望は町会長へ、地域の要望としてあげるよう、PTAでも働きかけたい。 *歩行者、自転車の乗り方の両面からルールとマナー等を繰り返して指導する必要もあると考える。		
VI 進路・生き方	11 進路についての学習や指導態勢の改善・充実を図っていますか。	⑮生徒の80%以上が、進路学習等を通して自己の生き方を考えている。 ※生徒の80%以上が自らの学習や生活上の課題を意識している。	A	A	*一人一人の生徒は、良く努力をしている。今後も、進路に関する学習を継続的にを行い、生徒の進路実現に向け、生徒と家庭の両面への指導をお願いしたい。 *高校や進学に加えて「生き方」についての幅広い情報も提供してもらい、生徒一人ひとりが、自分のこととして考えられるようにして行ってほしい。	○生徒の88%、保護者の86%が、自らの進路や生き方について考えるようになってきていると答えている。各学年ごとに講演会などの進路行事や体験活動を伴ったキャリア教育の課題を具体化し、計画的に指導を行った成果が徐々に現れてきていると考えられる。今後も改善を重ねて、一人ひとりが自分の生き方について見つめ直し、働くことや学ぶことへの意欲を高め、将来に対する夢や希望をはぐくめるようにしていく。また、来年度から導入されるキャリアパスポートを有効活用し、見直しを持って自分の進路について考えていけ、生徒や保護者も確認できる取組を推進する。 ○82%の保護者が、子供と将来の夢や進路について話し合っていると答えている。家庭と連携して進路について考える課題を設定したことによる成果である。今後とも、将来の社会的・職業的自立に向けた必要な能力・態度を育成するためのキャリア教育を充実させ、学校全体での取組をより一層充実させていく。	
	12 家庭では、生徒の将来の夢や希望について話し合っていますか。	⑯生徒の80%以上が、将来の夢や進路について親子で話し合っている	A	A	*学校からの働きかけで不登校だった生徒の状態が好転してきている。継続して取り組み、また、不登校の生徒の卒業に向けての指導もお願いしたい。		
VII 組織・運営	教職員マネジメント	⑰教師の80%以上が、設定した自己目標の達成に向けて、主体的に日常の教育実践に取り組んでいる。 ⑱教師の100%が、服務規律確保を実行していると回答している。	A	A		○教師の100%が、設定した自己の目標の達成に向けて主体的に日常の教育実践を行っている、と答えている。教職員の資質・能力の向上、学校の組織力の向上のために、今後も面談や日常の観察を通して教職員の状況を具体的に把握し、一人ひとりに応じたきめ細かい指導・助言を行ってきたい。 ○職員の100%が、服務規律の確保を実行していると答えている。本校の重点課題及び行動目標を明記した「規律確保行動計画」を活用し、校内服務規律委員会等で定期的に啓発するとともに、積極的に情報提供を行い、職員共通理解の下、積極的な姿勢で規律確保行動計画を活用していきたい。	
	研修	⑲教師の80%以上が、校内研修組織が整備され、見直しをもって効果的に研修が実施できたと回答している。	A	A			
	文書管理	⑳職員の100%が、データをPCやファイルに整理されていると答えている。	B	A			